

都道府県別賞一等

未来のために

滋賀県 草津市立草津中学校 二年生

舩 亜珠実

私たちは未来も予想できず、いつ何が起こるかわからない世界で生きています。人生には「もしも」の出来事が存在します。突然の事故や病気、そして思いもよらない不幸の出来事。人はいつ死ぬかわからない、大切な人をいつ失うかわかりません。失って家庭が壊れる前に守ってくれるのが「生命保険」です。私は生命保険というものがどのような働きをして生命保険に入っている人を救うのか自分で調べたり、祖父に話を聞くことにしました。

私の祖父は保険に加入していることで、今の生活を大きく変えることなく生きていくことができます。祖父から生命保険の中の一つの医療保険について話を聞きました。祖父は大きくて重たいものを足に落としてしまい、左足を骨折しました。腓骨と脛骨の二本が折れてしまい、手術をして約四十五日間の入院生活を送ることになりました。祖父は二つの医療保険に入っていたことで治療費や入院費の支出が抑えられ、その後の生活にも影響を及ぼすことがなかったそうです。もし、保険に入っていなかったら、生活はどうなっていたのでしょうか。そう考えると生命保険の大切さを実感できました。私はこの生命保険は誰でも入ることができるのか疑問に思いました。話を聞いたり、調べたりしたところ誰でも入れるわけではないと知りました。その理由としては健康状態によるからです。持病や病気を発見してからでは生命保険に入れないこともあります。また、危険な職業に就いている場合も入ることを制限される可能性があります。あることを知りました。しかし、生命保険に入れないことで不自由に思うことはないそうです。それは預貯金で備えているので、いざ何かあっても一応大丈夫だと言っていました。これは社会的に問題にはなっていないかもしれませんが持病を抱えている人からしたら、生命保険に入れないことがあるのは大きな不安になってしまうのではないかと思いました。

生命保険は「万が一のための備え」であると同時に「安心して生きていくための支え」でもあります。今の私の年齢ではまだまだわからないこともあります。将来家族の未来を守るか、守れないかの選択なので自分の生活状況や家族構成を考えたいうえで必要な保障を見極めて情報をしっかり集め、信頼できる保険に入ること。未来の人生の不安を少しでも軽くできたらいいいと思います。そして生命保険に入ること。不安が軽くなるのなら生命保険に入ることができない人は不安が募るばかりなのではないでしょうか。その不安をなくす

第63回中学生作文コンクール

ために私たちにできることを探し、取り組むことができると思ふ不安がなくなるのではないかと思いました。ですが、保険に入らなくても不安を感じず生きていける人もいるので個人のライフステージによって異なるとも思いました。そのため自分のことを知り、見つめることが大切だと思いました。私にとっての生命保険は「安心を買う」ものだと思います。保険は安心できる私のパートナーになると思います。未来を見据えて、備えることは後悔しない選択だと私は思いました。